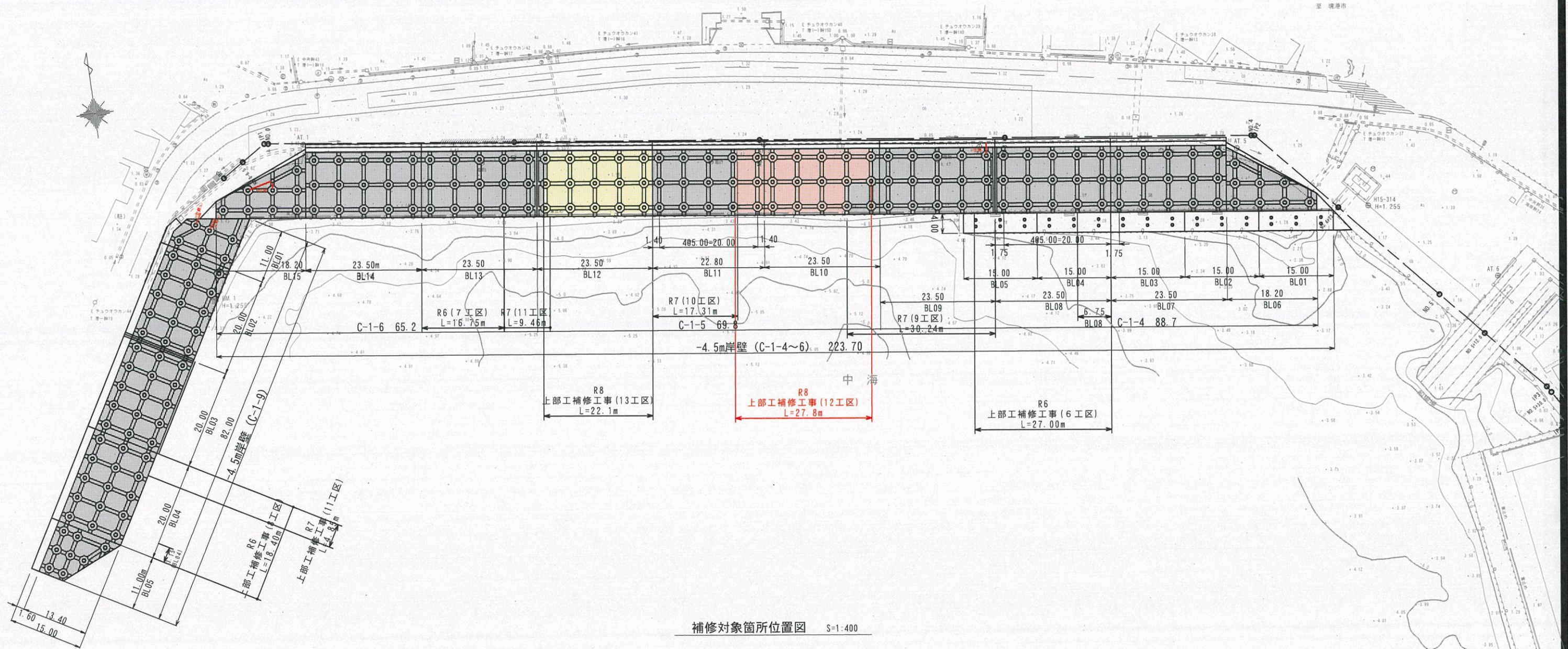
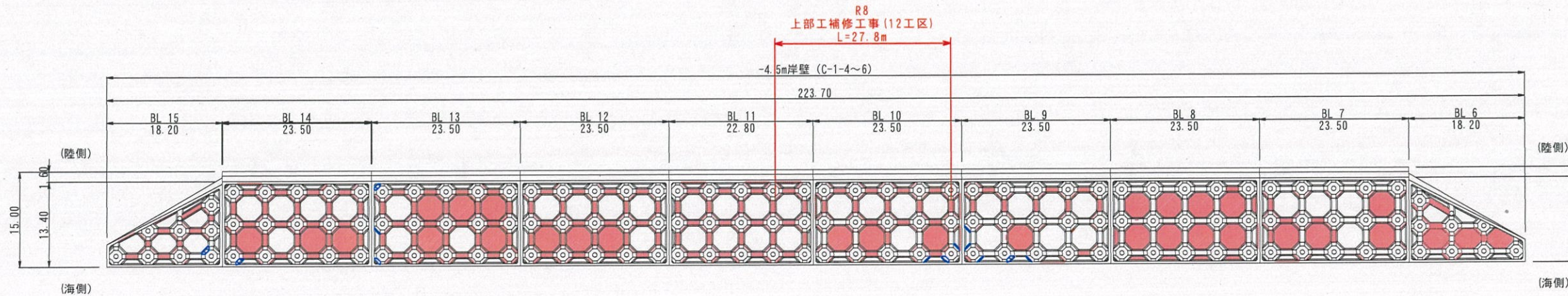


全体一般図

全体平面図 S=1:400



補修対象箇所位置図 S=1:400



凡例

劣化度 a	
劣化度 b	
劣化度 c	

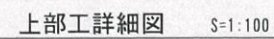
補修対象箇所

補修工名称	補修対象箇所及び凡例
上部工断面修復工	平面図 赤の箇所
上部工表面被覆工	平面図 青の箇所

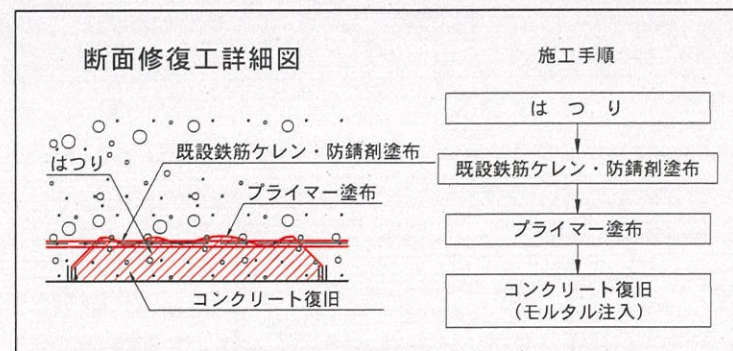
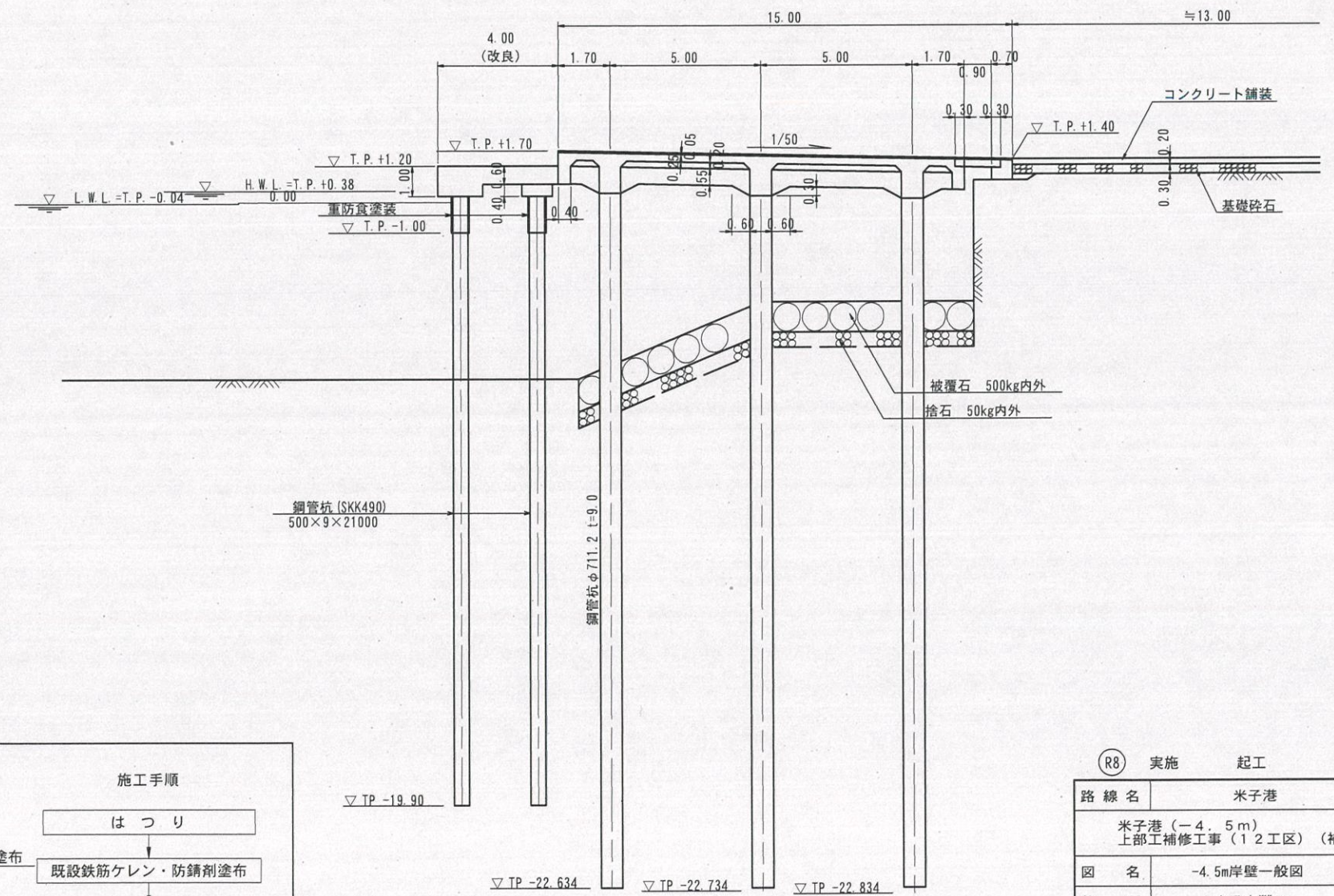
路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	全体一般図
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 14 葉中の内 1
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

※A3出力時縮尺1/2

上部工平面図 (投影図) S=1:400



断面図



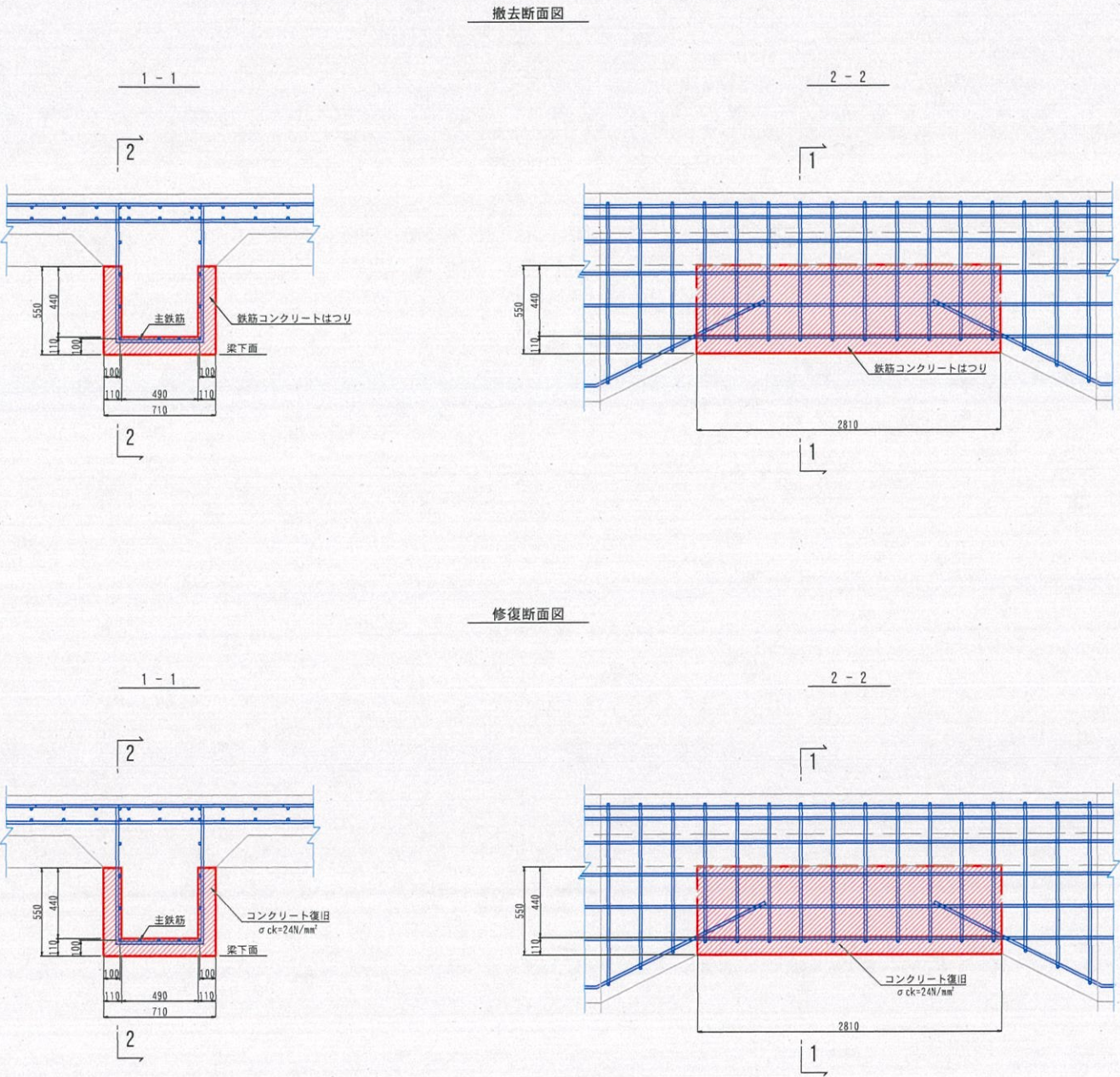
(R8)	実施	起工
路線名	米子港	
米子港（－4.5m） 上部工補修工事（12工区）（補助）		
図名	-4.5m岸壁一般図	
位置	米子市灘町	
縮尺	図示	単位 mm
図号	全 14 葉中の内 2	
令和 8 年度施行		鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局		

上部工断面修復詳細図 (32)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)

(BL10, L=23.5m タイプ1)

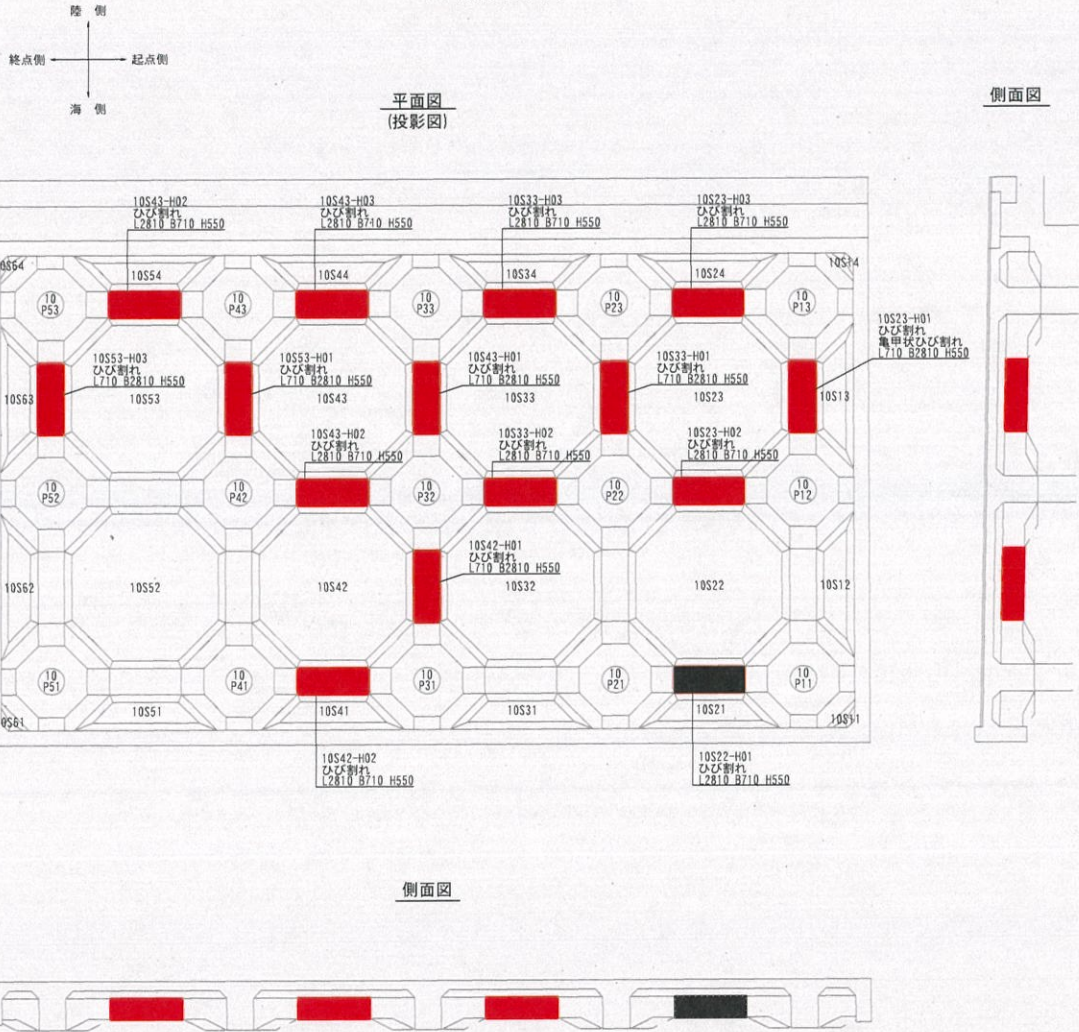
タイプ1 修復断面図 S=1:20



タイプ1 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り 数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.491	14	6.874	$V_1 = (0.710 + 0.440 \times 2) \times 0.110 \times 2.810$ $= 0.491 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.491 \times 14 = 6.874 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	m ³	0.491	14	6.874	$V_1 = (0.710 + 0.440 \times 2) \times 0.110 \times 2.810$ $= 0.491 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.491 \times 14 = 6.874 \text{ m}^3$
型枠		m ²	5.086	14	71.204	$A_1 = (0.710 + 0.550 \times 2) \times 2.810$ $= 5.086 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 5.086 \times 14 = 71.204 \text{ m}^2$

タイプ1 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ1 修復	14

注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

R8 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (32)
位置	米子市灘町
縮尺	図示 単位 mm
図号	全 14 葉中の内 3
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

※A3出力時縮尺1/2

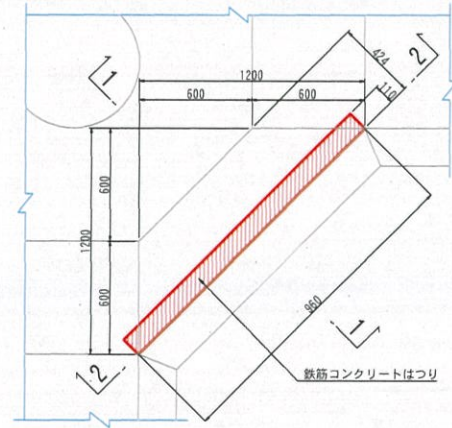
上部工断面修復詳細図 (33)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL10, L=23.5m タイプ2)

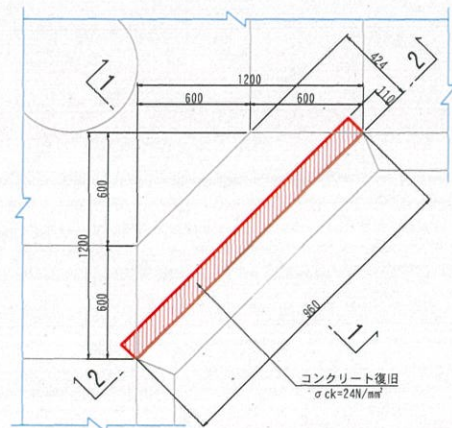
タイプ2 修復断面図 S=1:20

タイプ2 修復位置図 (変状図より) S=1:100

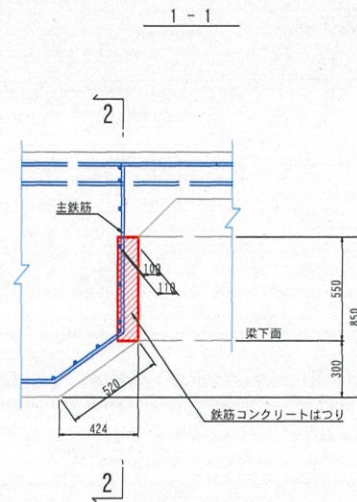
撤去平面図



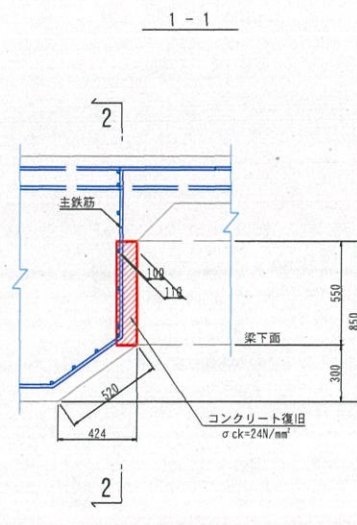
修復平面図



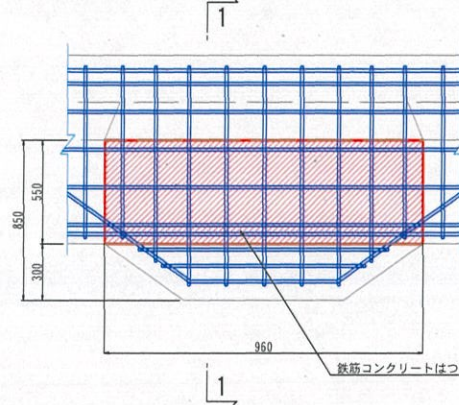
撤去断面図



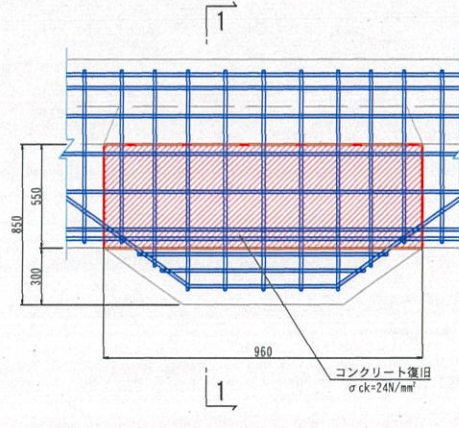
修復断面図



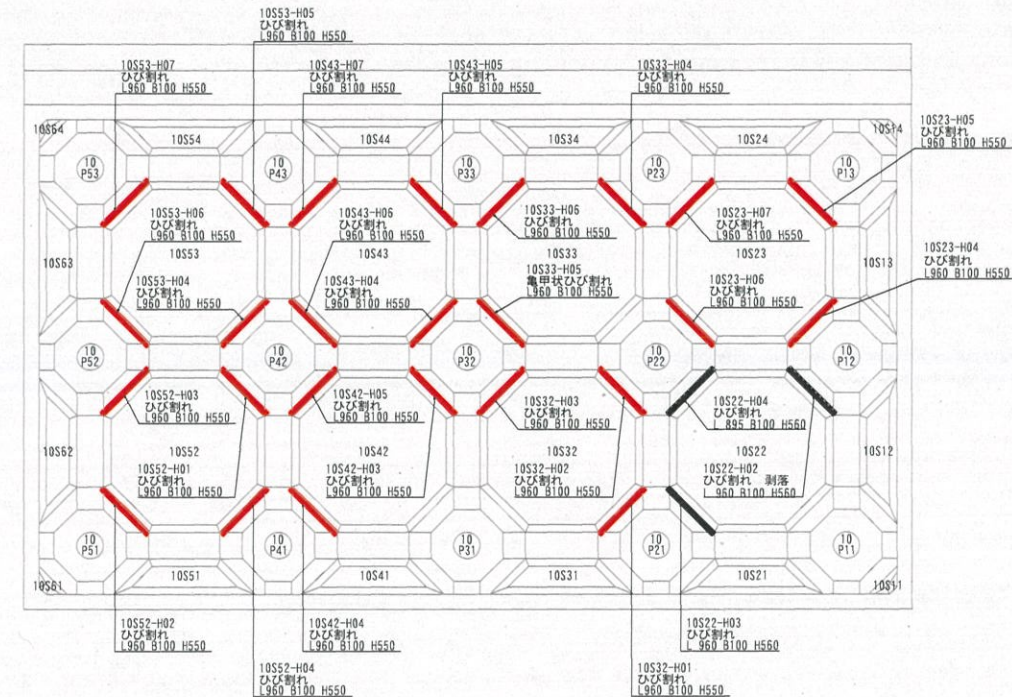
2-2



2-2



平面図 (投影図)



側面図



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ2 修復	25

タイプ2 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.058	25	1.450	V = 0.550 × 0.110 × 0.960 = 0.058 m ³ /箇所 V = 0.058 × 25 = 1.450 m ³
コンクリート復旧	σ ck=24N/mm ²	m ³	0.058	25	1.450	V = 0.550 × 0.110 × 0.960 = 0.058 m ³ /箇所 V = 0.058 × 25 = 1.450 m ³
型枠		m ²	0.528	25	13.200	A = 0.550 × 0.960 = 0.528 m ² /箇所 A = 0.528 × 25 = 13.200 m ²

- 注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を160200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

⑧ 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (33)
位置	米子市灘町
縮尺	図示 単位 mm
図号	全 14 葉中の内 4
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

上部工断面修復詳細図 (35)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL10, L=23.5m タイプ4)

タイプ4 修復断面図 S=1:20

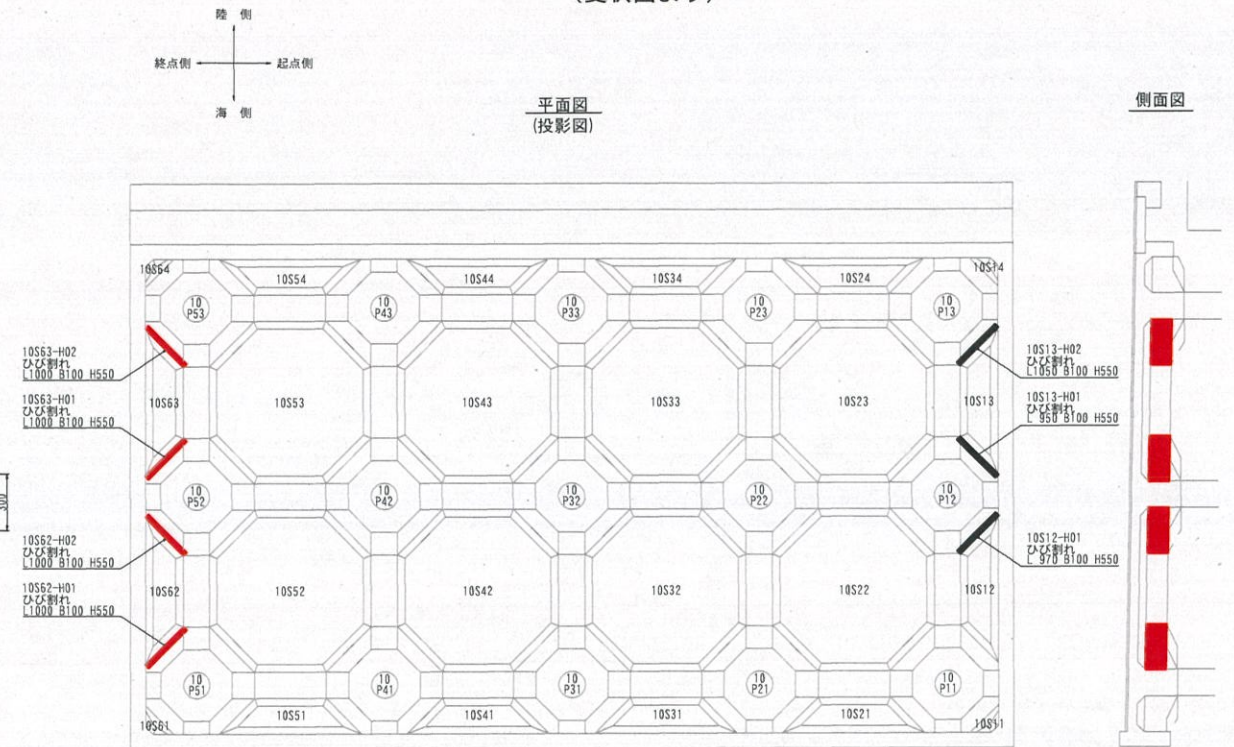
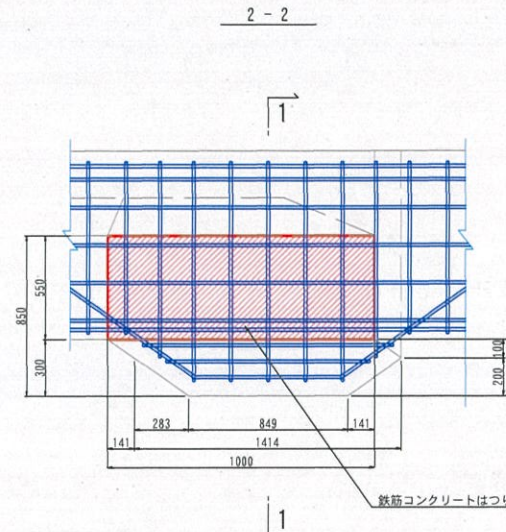
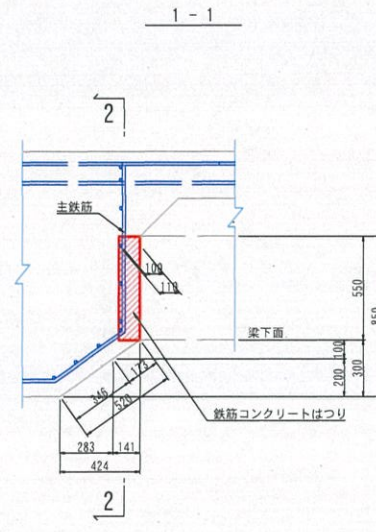
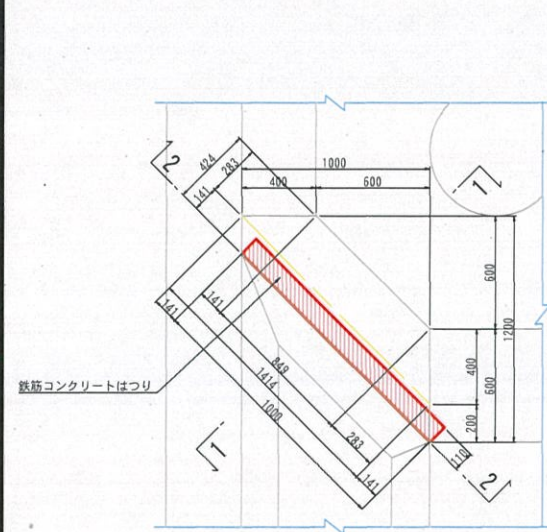
タイプ4 修復位置図 S=1:100
(変状図より)

撤去平面図

撤去断面図

平面図
(投影図)

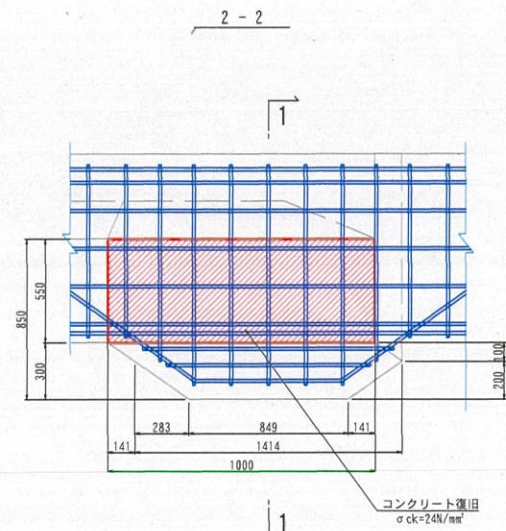
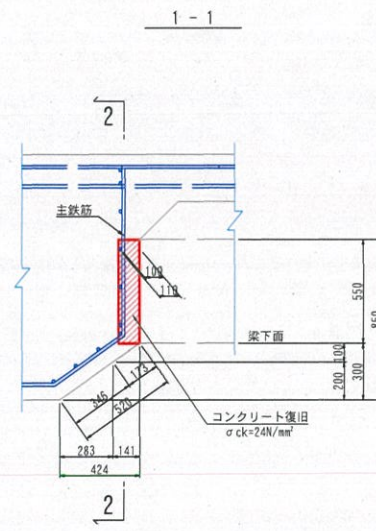
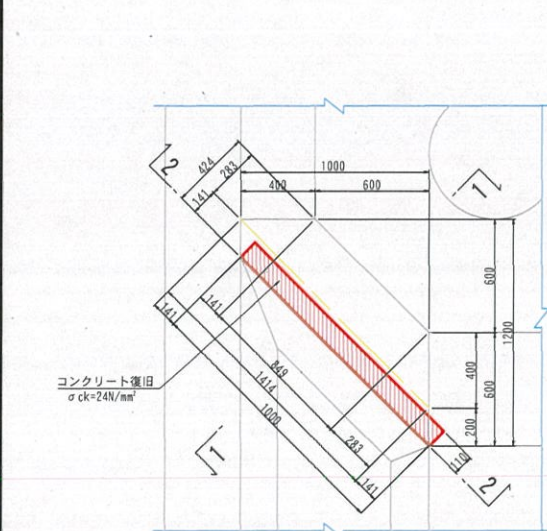
側面図



修復平面図

修復断面図

側面図



凡例		
記号	名称	箇所
	タイプ4 修復	4

タイプ4 数量表

工種	規格	単位	箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.061	4	0.244	$v = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 4 = 0.244 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m ³	0.061	4	0.244	$v = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 4 = 0.244 \text{ m}^3$
型枠		m ²	0.550	4	2.200	$a = 0.550 \times 1.000$ $= 0.550 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 0.550 \times 4 = 2.200 \text{ m}^2$

- (注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違えば、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

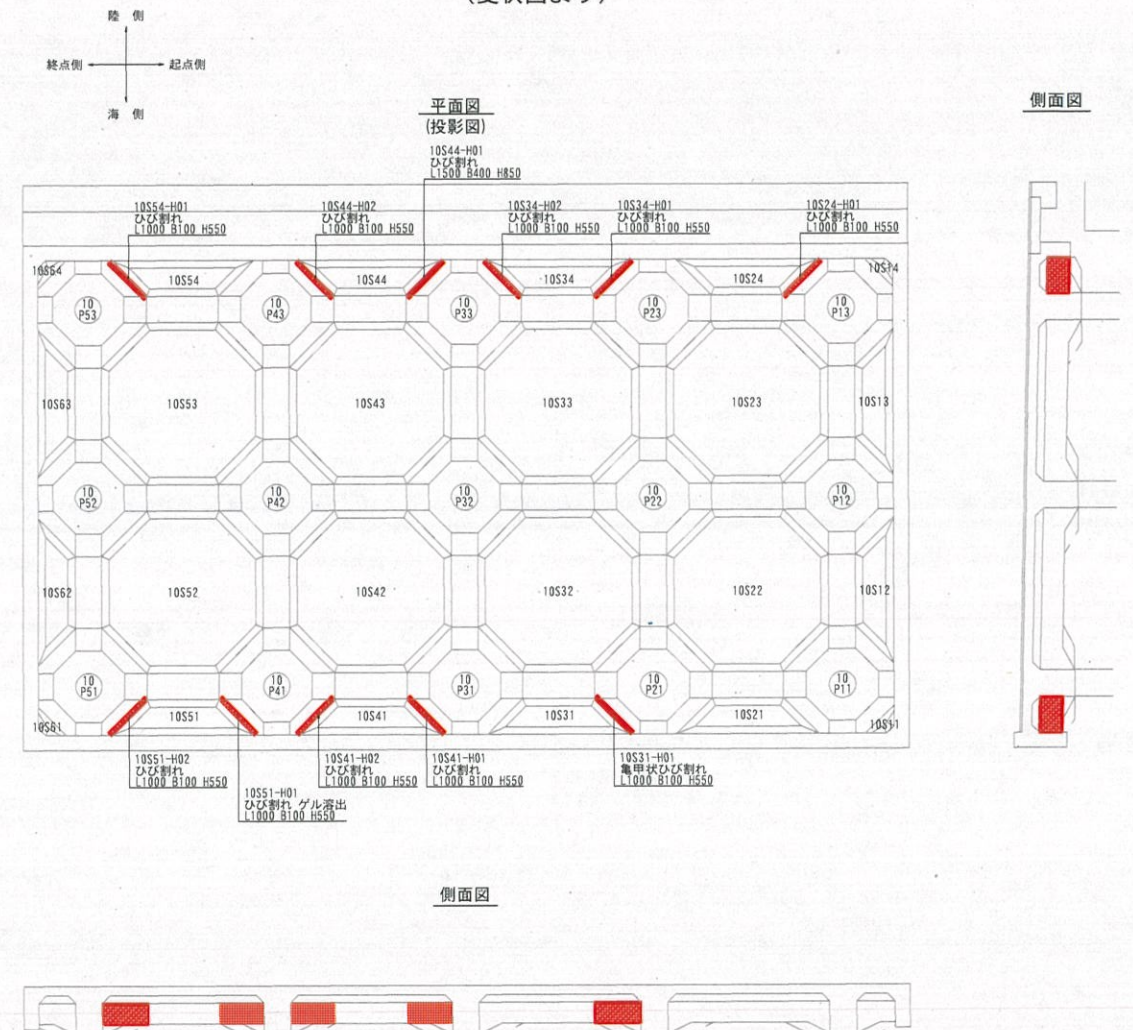
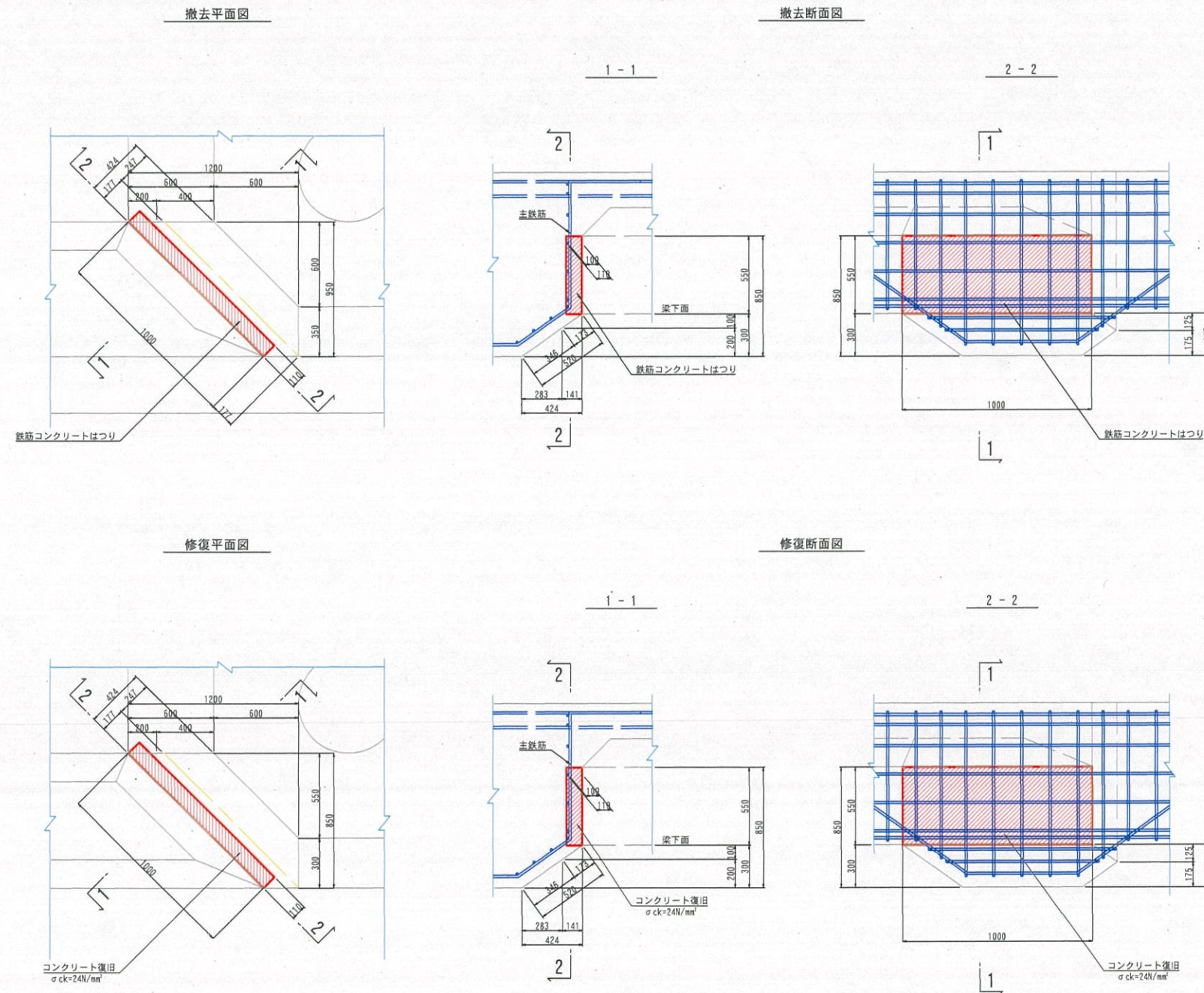
R8 実施 起工

路線名	米子港
図名	米子港 (-4.5m) 上部工補修工事(12工区)(補助)
位置	米子市灘町
縮尺	図示
単位	mm
図号	全 14 葉中の内 5
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL10, L=23.5m タイプ5)

タイプ5 修復断面図 S=1:20

タイプ5 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



凡 例		
記 号	名 称	箇所
	タイプ5 修復	11

注)・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

工 種	規 格	単位	1箇所当り 数 量	箇所	数 量	備 考
鉄筋コンクリートばつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.061	11	0.671	$V_1 = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 11 = 0.671 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N}/\text{mm}^2$	m ³	0.061	11	0.671	$V_1 = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 11 = 0.671 \text{ m}^3$
型 枠		m ²	0.550	11	6.050	$A = 0.550 \times 1.000$ $= 0.550 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 0.550 \times 11 = 6.050 \text{ m}^2$

(R8) 実施		起工	
路線名		米子港	
米子港（－4.5m） 上部工補修工事（12工区）（補助）			
図名		上部工断面修復詳細図（43）	
位置		米子市灘町	
縮尺	図示	単位	mm
図号		全 14 葉中の内 6	
令和 8 年度施行			鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局			

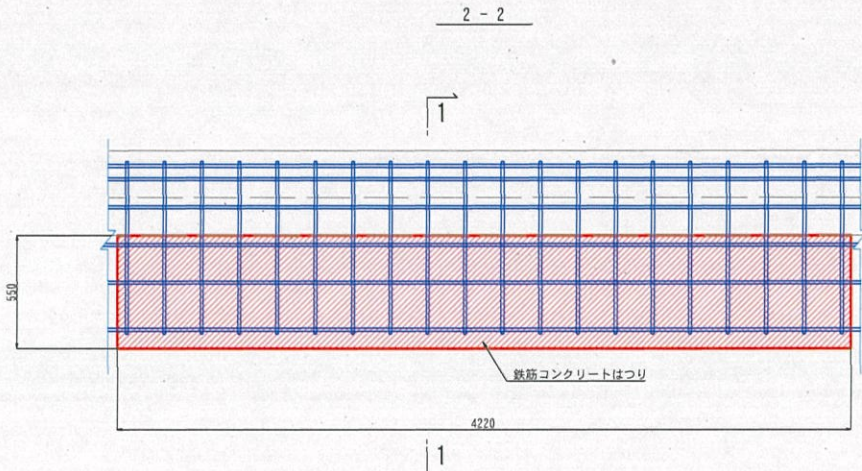
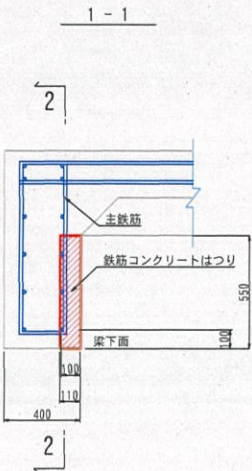
※A3出力時縮尺1/2

上部工断面修復詳細図 (37)

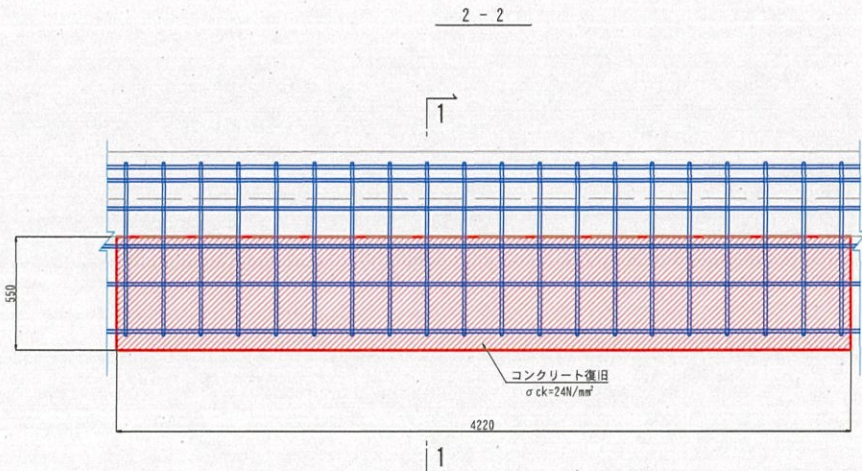
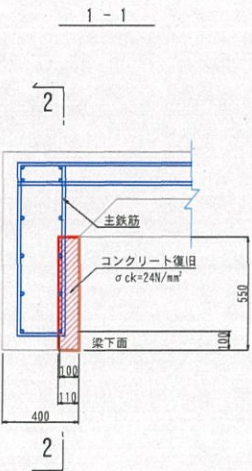
岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL10, L=23.5m タイプ6)

タイプ6 修復断面図 S=1:20

撤去断面図



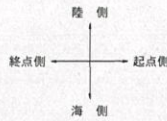
修復断面図



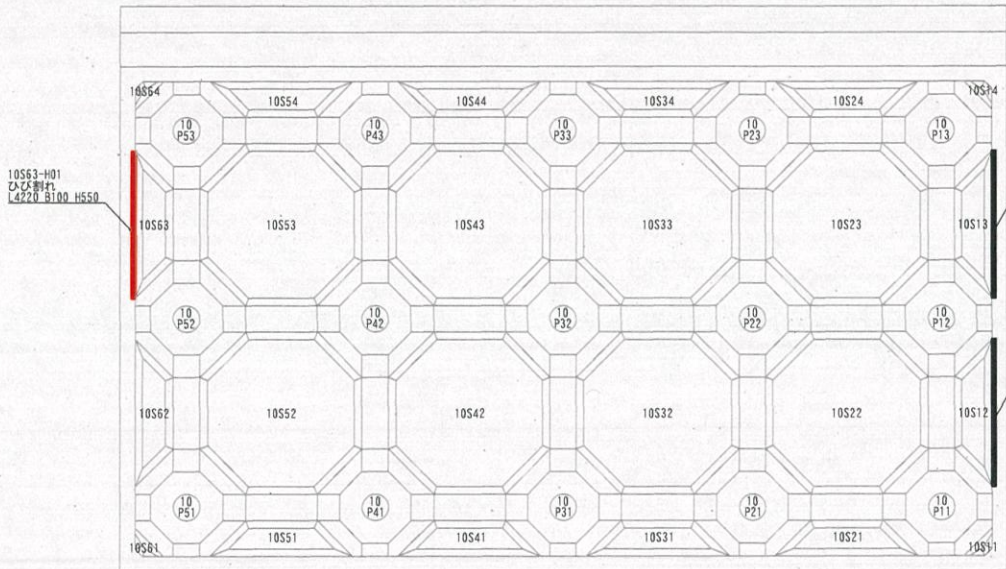
タイプ6 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m³	0.255	1	0.255	$V_1 = 0.550 \times 0.110 \times 4.220 = 0.255 \text{ m}^3 / \text{箇所}$ $V = 0.255 \times 1 = 0.255 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m³	0.255	1	0.255	$V_1 = 0.550 \times 0.110 \times 4.220 = 0.255 \text{ m}^3 / \text{箇所}$ $V = 0.255 \times 1 = 0.255 \text{ m}^3$
型枠		m²	2.785	1	2.785	$A_1 = (0.550+0.110) \times 4.220 = 2.785 \text{ m}^2 / \text{箇所}$ $A = 2.785 \times 1 = 2.785 \text{ m}^2$

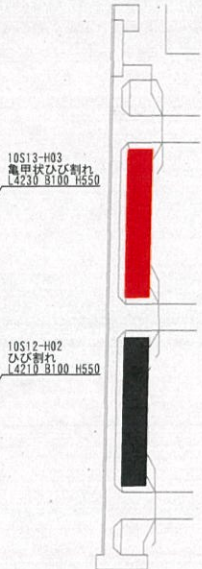
タイプ6 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



平面図
(投影図)



側面図



側面図



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ6 修復	1

注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

R8 実施 起工

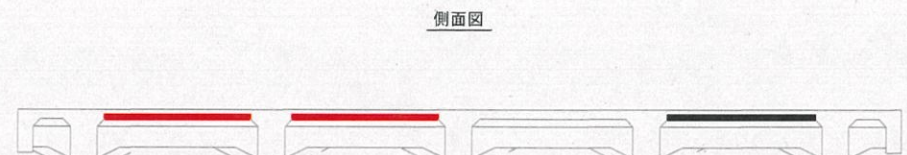
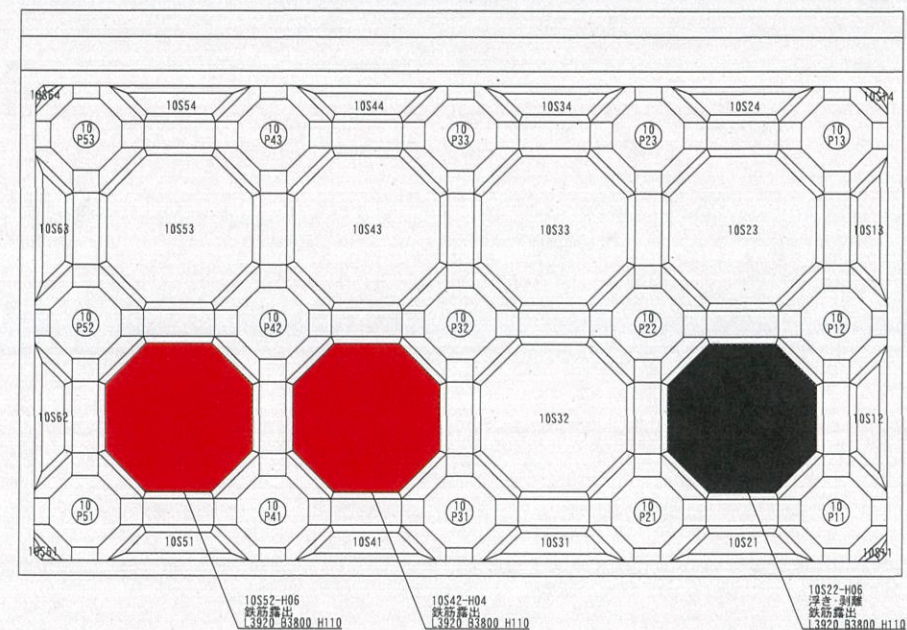
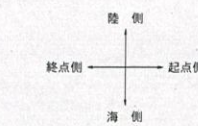
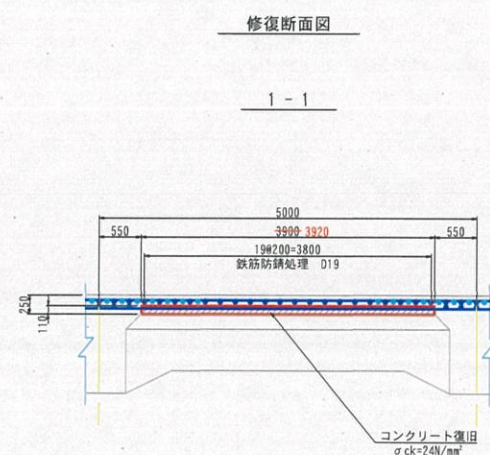
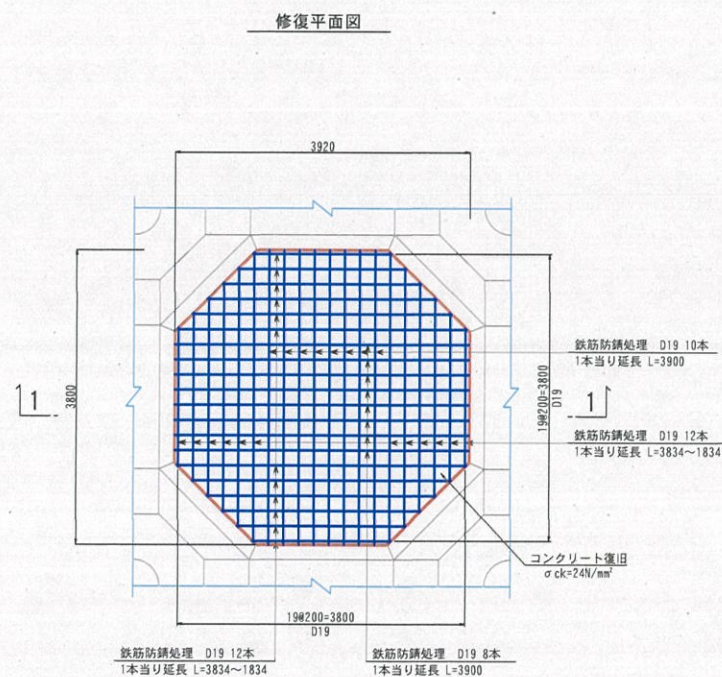
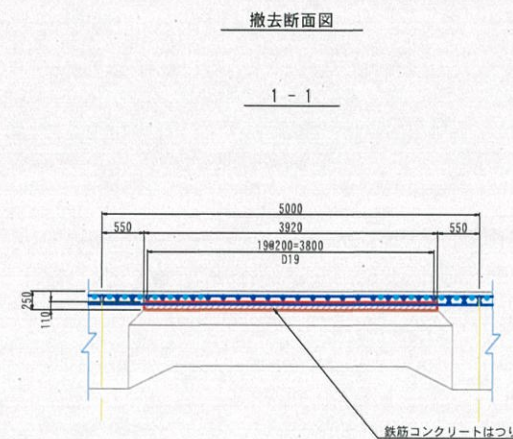
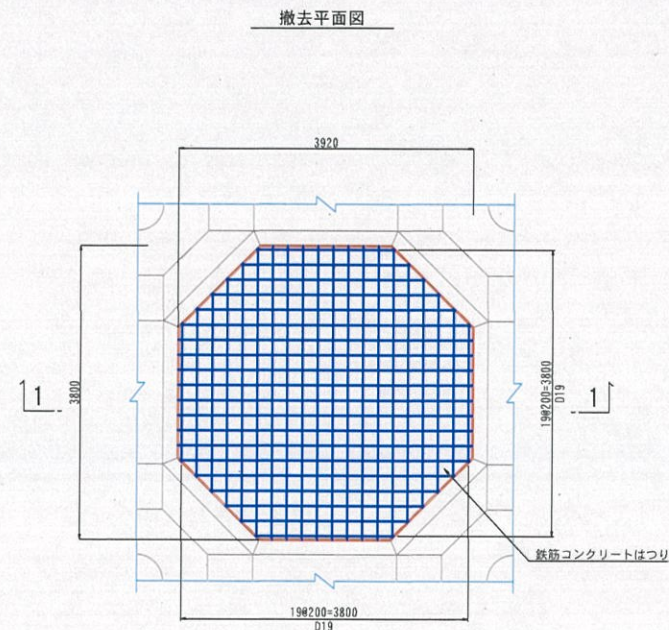
路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事(12工区)(補助)	
図名	上部工断面修復詳細図(37)
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全14葉中の内7
令和8年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

上部工断面修復詳細図 (38)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL10, L=23.5m タイプ7)

タイプ7 修復断面図 S=1:50

タイプ7 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



凡 例

記 号	名 称	箇 所
	タイプ7 修復	2

- 注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を160200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少部分を添え筋により補強すること。

タイプ7 数量表

工 種	規 格	単位	1箇所当り 数 量	箇 所	数 量	備 考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m³	1.728	2	3.456	$V = 15.712 \times 0.110$ $= 1.728 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 1.728 \times 2 = 3.456 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m³	1.728	2	3.456	$V = 15.712 \times 0.110$ $= 1.728 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 1.728 \times 2 = 3.456 \text{ m}^3$
型 枠		m²	15.712	2	31.424	$A = 15.712 \times 2 = 31.424 \text{ m}^2$

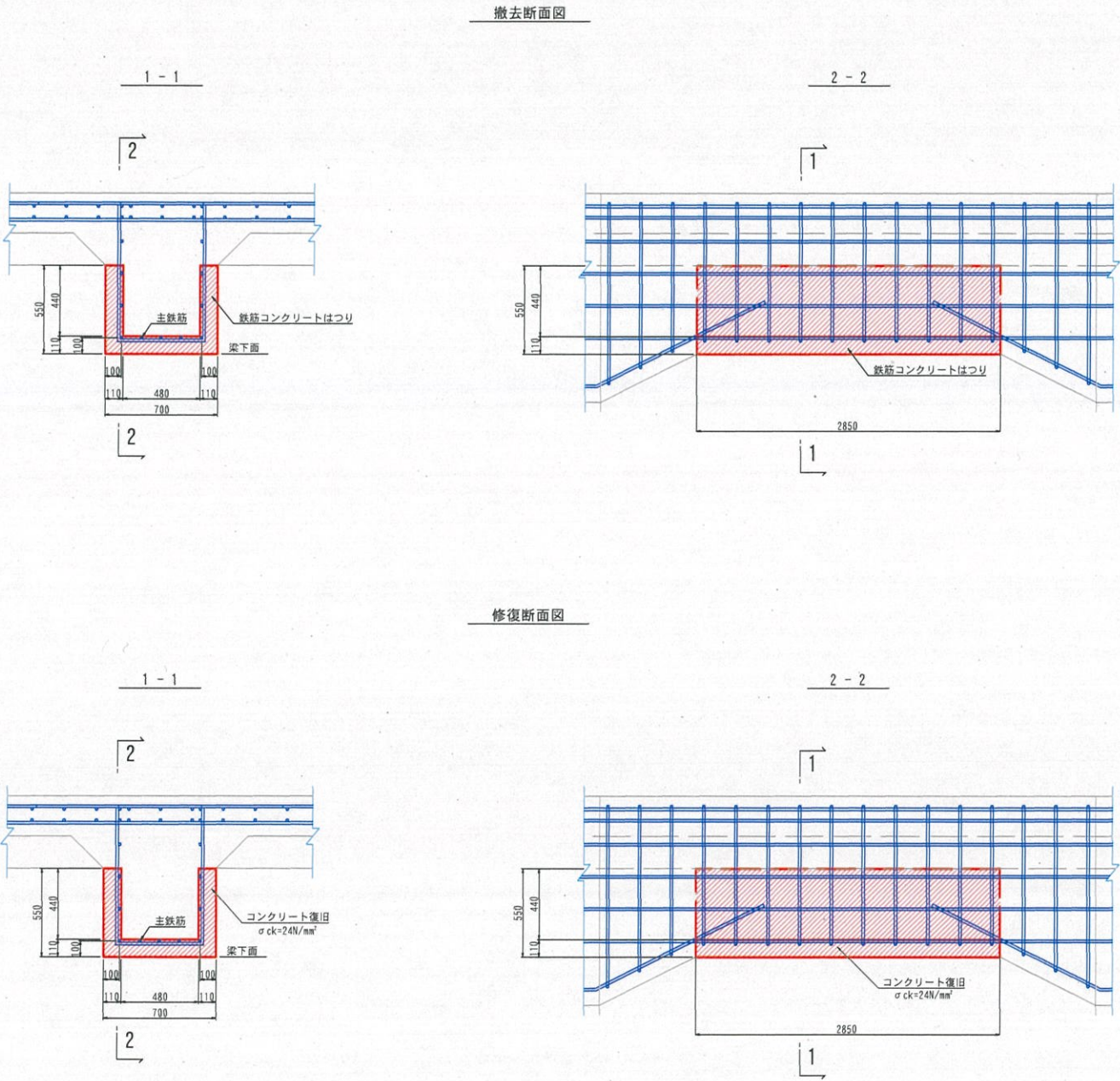
(R8) 実施 起工

路 線 名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図 名	上部工断面修復詳細図 (38)
位 置	米子市灘町
縮 尺	図 示 単 位 mm
図 号	全 14 葉中の内 8
令和 8 年度施行	鳥 取 県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

上部工断面修復詳細図 (39)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ1)

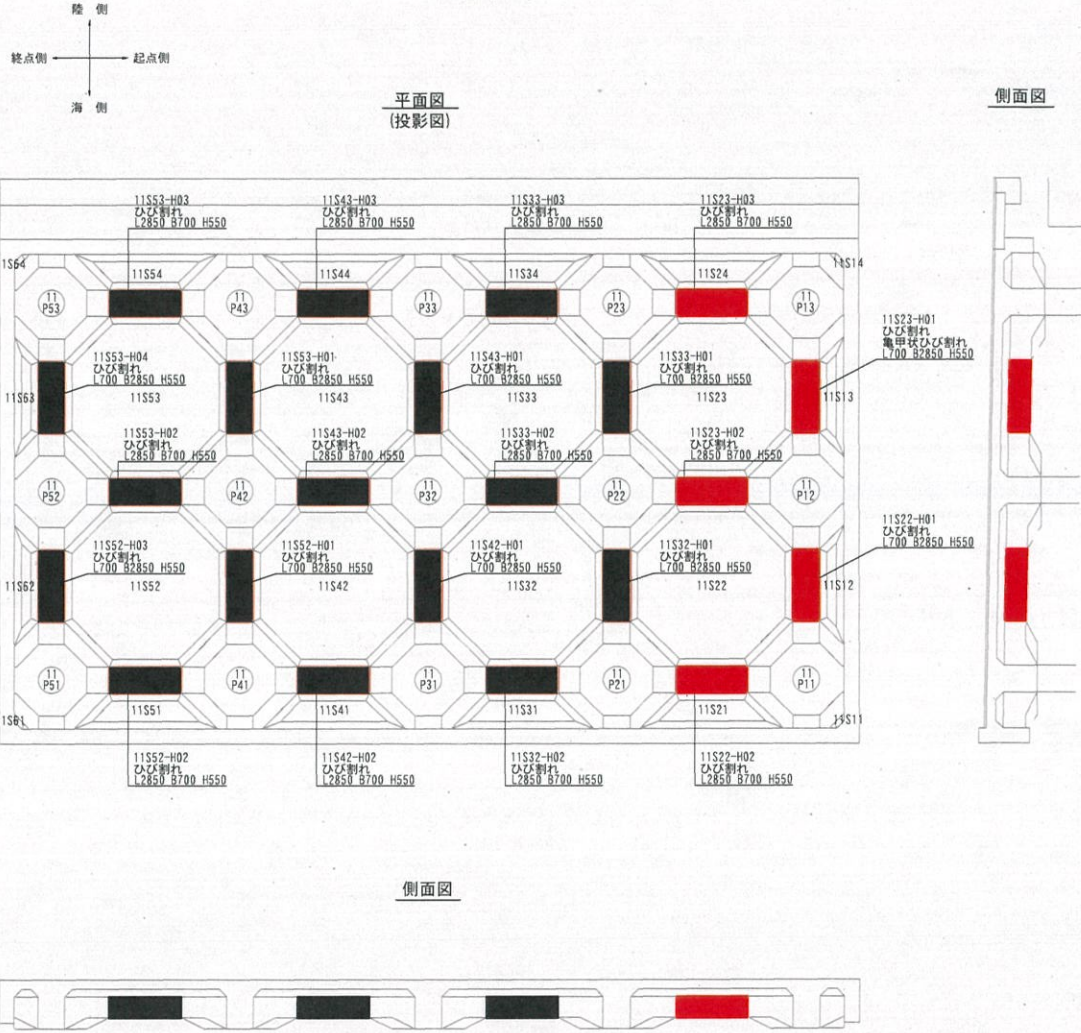
タイプ1 修復断面図 S=1:20



タイプ1 数量表

工種	規格	単位	箇所 数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.495	5	2.475	$V_1 = (0.700 + 0.440 \times 2) \times 0.110 \times 2.850$ $= 0.495 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.495 \times 5 = 2.475 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m ³	0.495	5	2.475	$V_1 = (0.700 + 0.440 \times 2) \times 0.110 \times 2.850$ $= 0.495 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.495 \times 5 = 2.475 \text{ m}^3$
型枠		m ²	5.130	5	25.650	$A_1 = (0.700 + 0.550 \times 2) \times 2.850$ $= 5.130 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 5.130 \times 5 = 25.650 \text{ m}^2$

タイプ1 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



(注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

(R8) 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (39)
位置	米子市灘町
縮尺	図示 単位 mm
図号	全 14 葉中の内 9
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

※A3出力時縮尺1/2

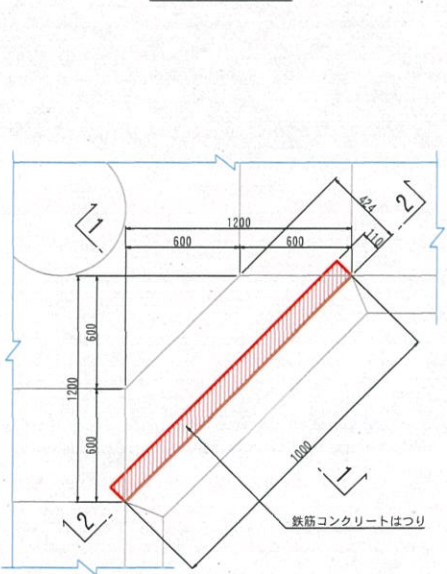
上部工断面修復詳細図 (40)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ2)

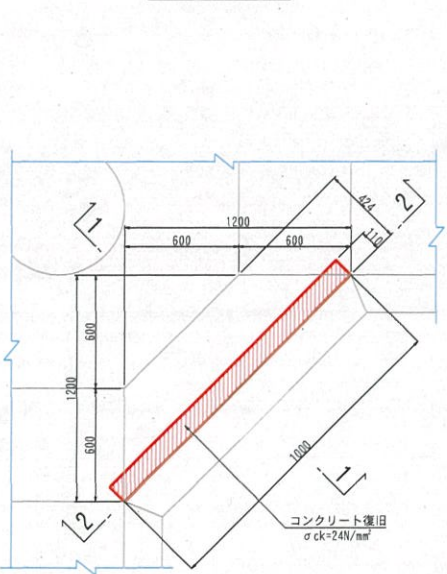
タイプ2 修復断面図 S=1:20

タイプ2 修復位置図 S=1:100
(変状図より)

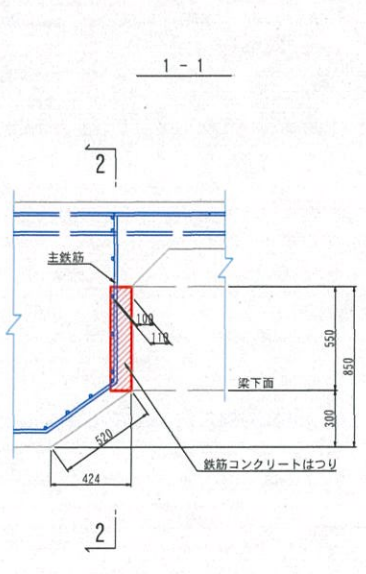
撤去平面図



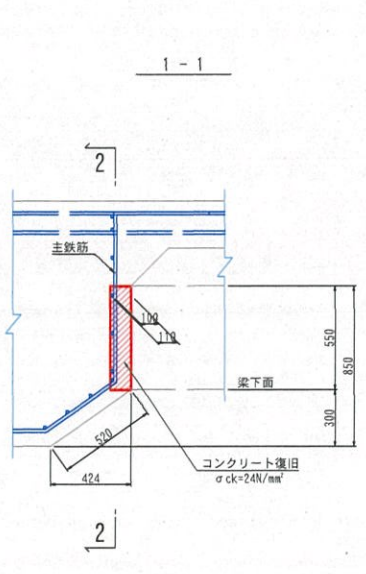
修復平面図



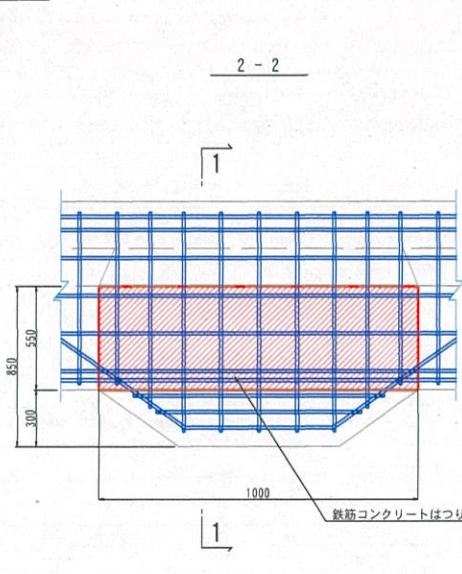
撤去断面図



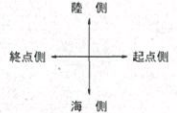
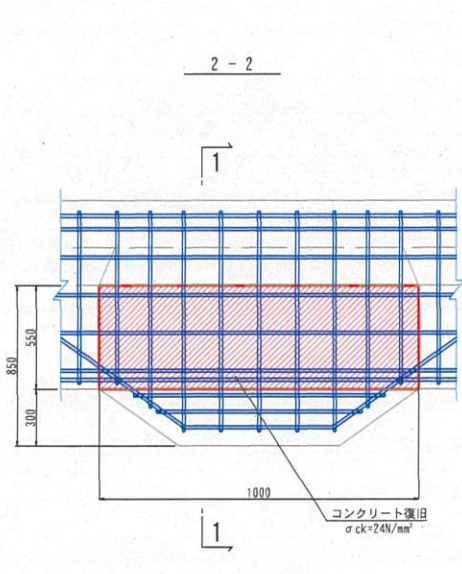
修復断面図



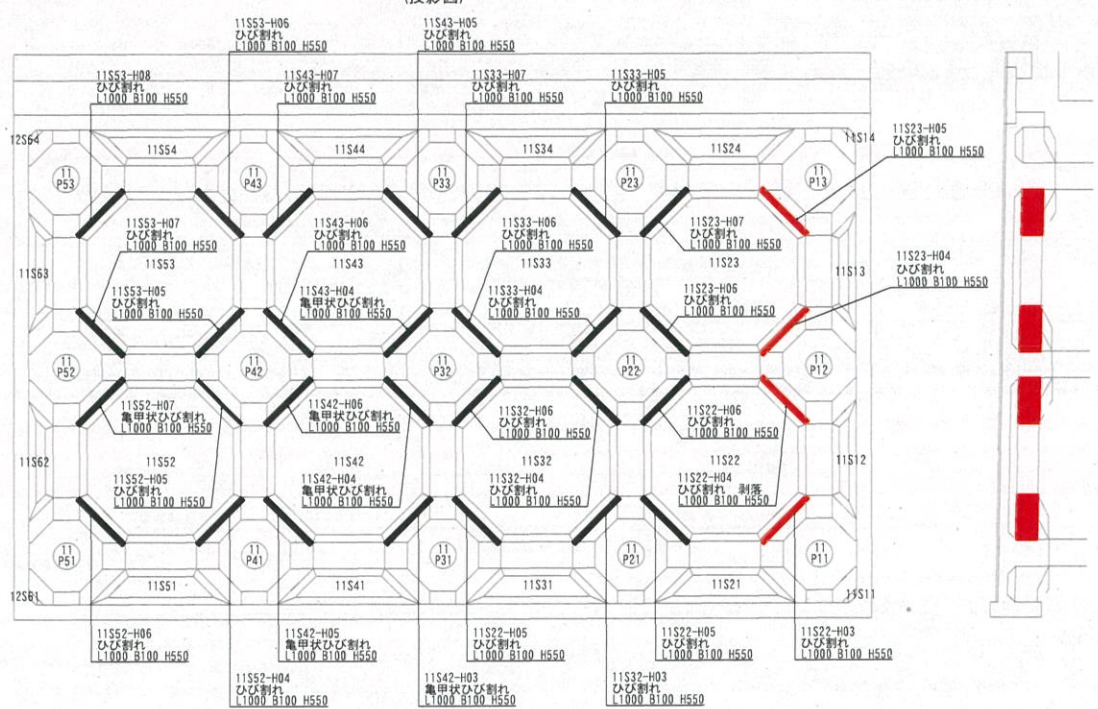
撤去断面図



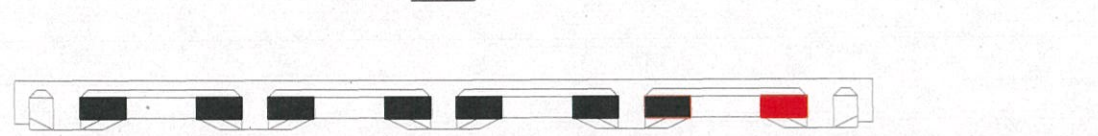
修復断面図



平面図
(投影図)



側面図



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ2 修復	4

タイプ2 数量表

工種	規格	単位	箇所 数量	箇所 数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.061	4	0.244 $V = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 4 = 0.244 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m ³	0.061	4	0.244 $V = 0.550 \times 0.110 \times 1.000$ $= 0.061 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.061 \times 4 = 0.244 \text{ m}^3$
型枠		m ²	0.550	4	2.200 $A = 0.550 \times 1.000$ $= 0.550 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 0.550 \times 4 = 2.200 \text{ m}^2$

(注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違えば、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面率が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

R8 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (40)
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 14 葉中の内 10
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

上部工断面修復詳細図 (41)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4.5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ3)

タイプ3 修復断面図 S=1:20

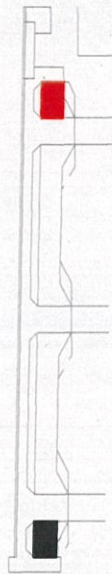
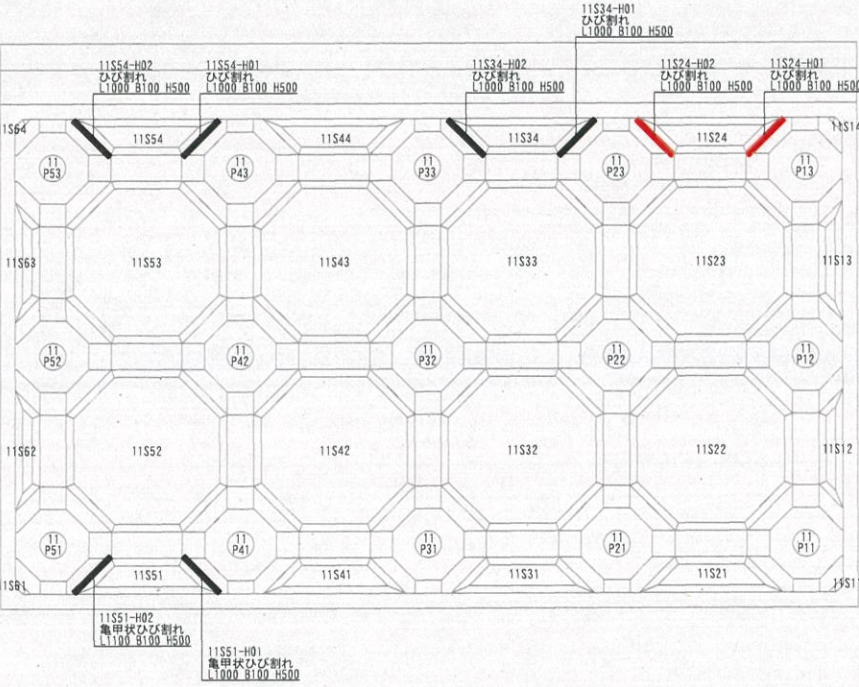
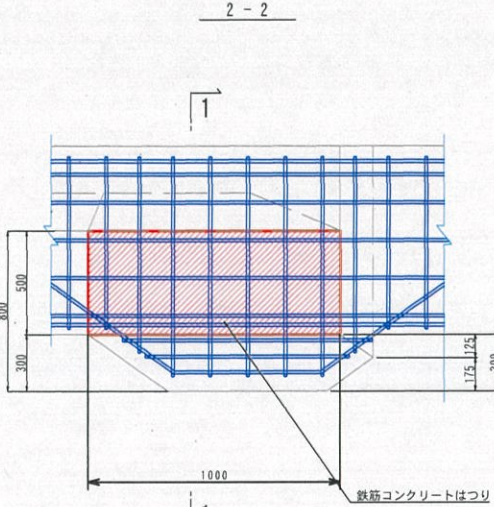
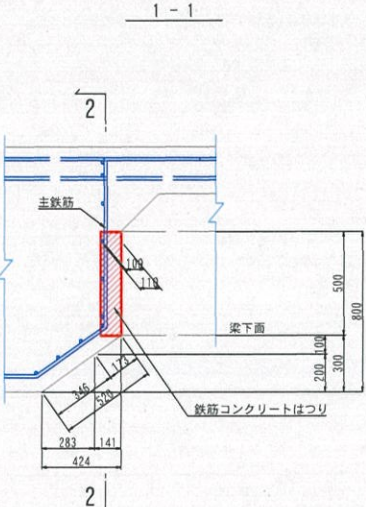
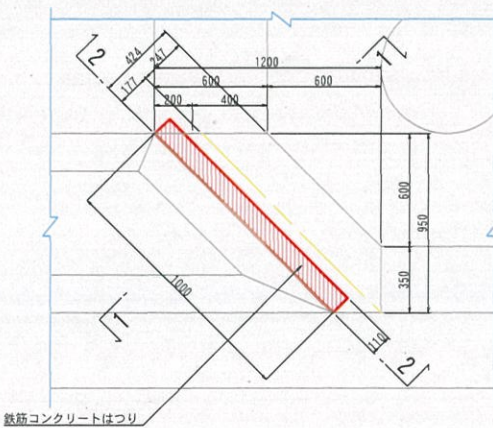
タイプ3 修復位置図 S=1:100
(変状図より)

撤去平面図

撤去断面図

平面図
(投影図)

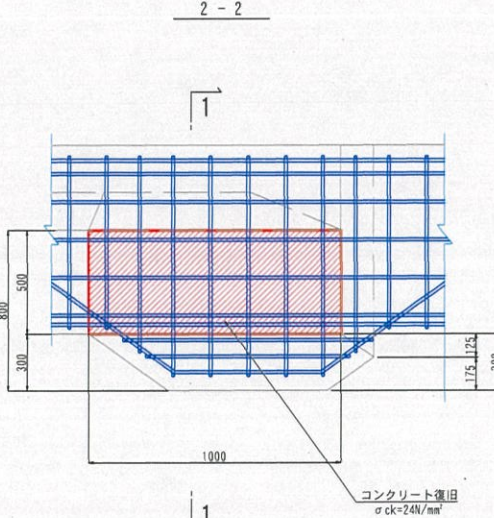
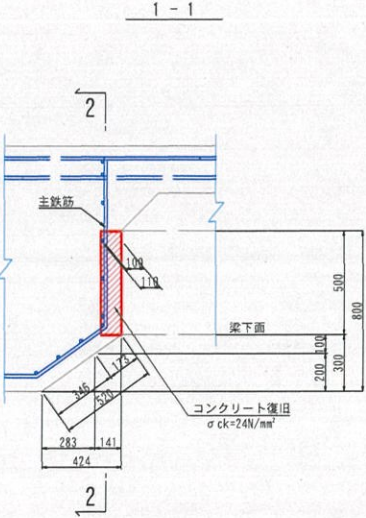
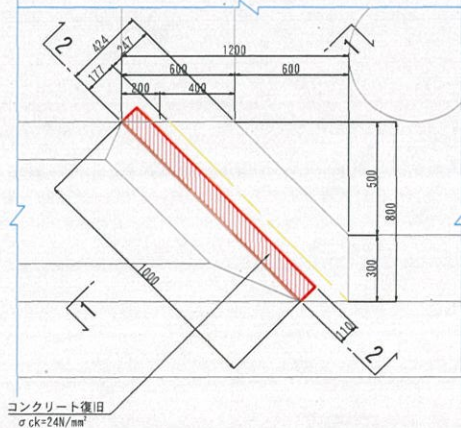
側面図



修復平面図

修復断面図

側面図



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ3 修復	2

注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

タイプ3 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.055	2	1.100	V = 0.500 × 0.110 × 1.000 = 0.055 m ³ /箇所 V = 0.055 × 2 = 1.100 m ³
コンクリート復旧	σ ck=24N/mm ²	m ³	0.055	2	1.100	V = 0.500 × 0.110 × 1.000 = 0.055 m ³ /箇所 V = 0.055 × 2 = 1.100 m ³
型枠		m ²	0.500	2	1.000	A = 0.500 × 1.000 = 0.500 m ² /箇所 A = 0.500 × 2 = 1.000 m ²

R8 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (41)
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 14 葉中の内 11
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

※A3出力時縮尺1/2

上部工断面修復詳細図 (42)

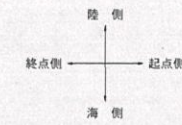
岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ4)

タイプ4 修復断面図 S=1:20

タイプ4 修復位置図 S=1:100
(変状図より)

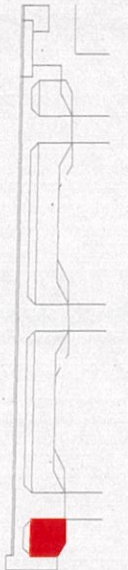
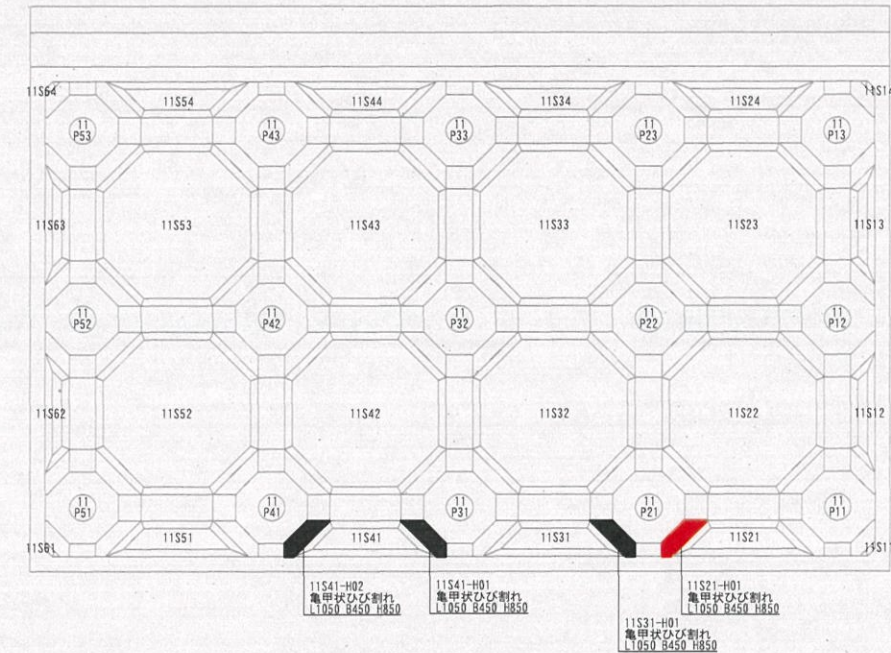
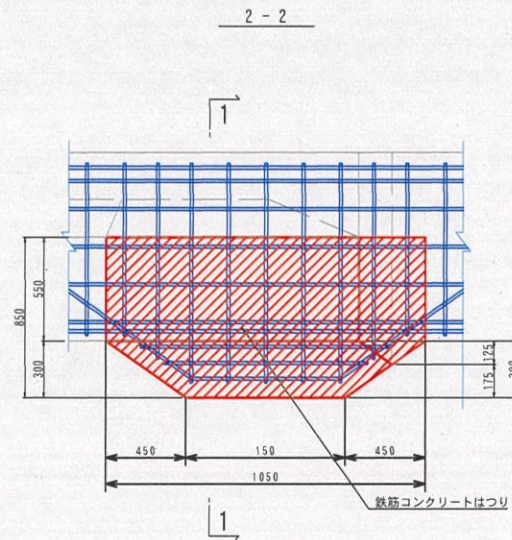
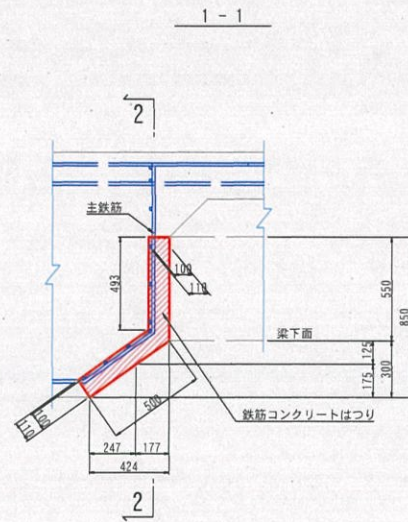
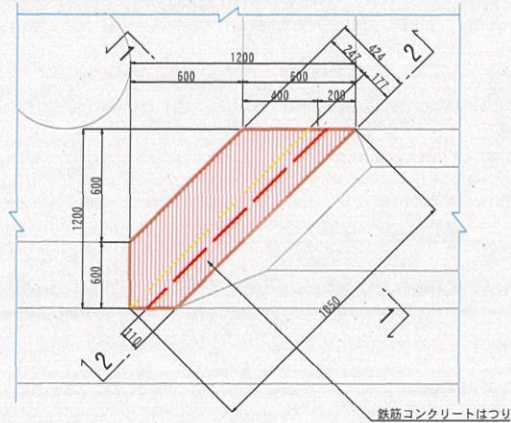
撤去平面図

撤去断面図



平面図
(投影図)

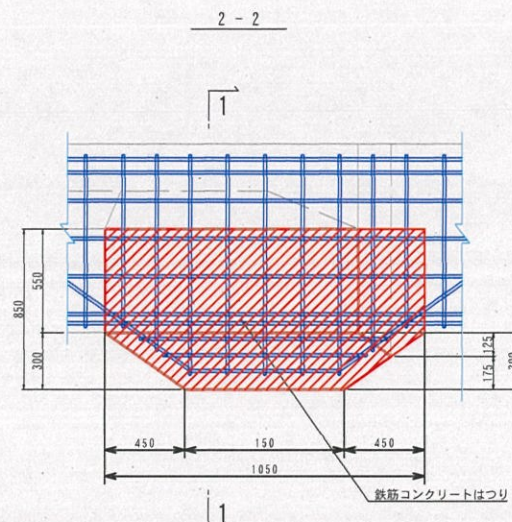
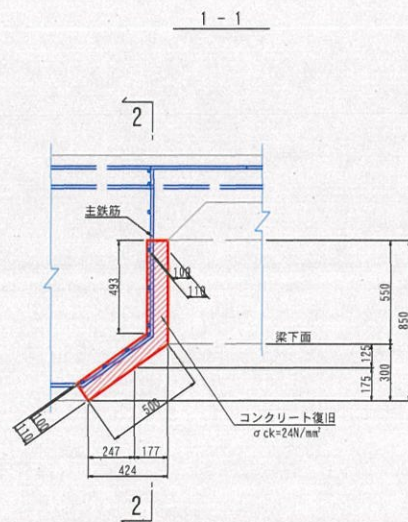
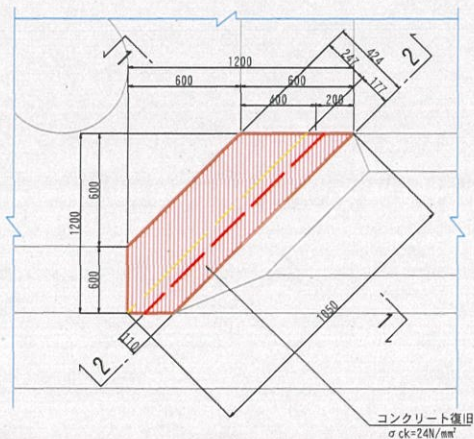
側面図



修復平面図

修復断面図

側面図



凡例

記号	名称	箇所
	タイプ4 修復	1

タイプ4 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.091	1	0.091	$V_1 = 1/2 \times (0.550 + 0.493) \times 0.110 \times 1.050$ $= 1/2 \times (0.500 + 0.442) \times 0.110 \times 1/2 \times (1.050 + 0.150)$ $= 0.091 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.091 \times 1 = 0.091 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m ³	0.091	1	0.091	$V_1 = 1/2 \times (0.550 + 0.493) \times 0.110 \times 1.050$ $+ 1/2 \times (0.500 + 0.442) \times 0.110 \times 1/2 \times (1.050 + 0.150)$ $= 0.091 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.091 \times 1 = 0.091 \text{ m}^3$
型枠		m ²	0.878	1	0.878	$A = 0.550 \times 1.050 + 0.500 \times 1/2 \times (1.050 + 0.150)$ $= 0.878 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 0.878 \times 1 = 0.878 \text{ m}^2$

- (注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を160200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

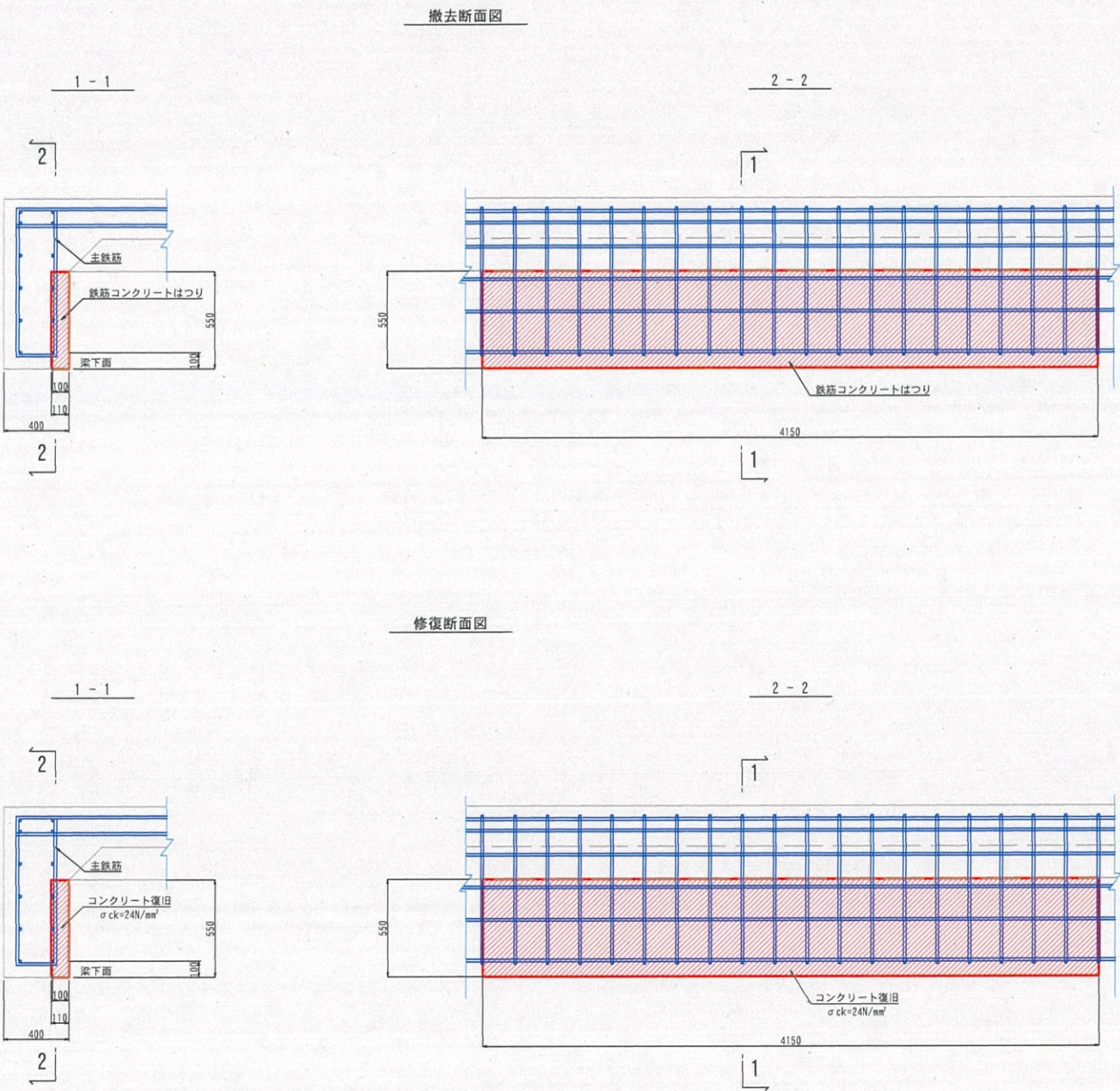
(R8) 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (42)
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 14 葉中の内 12
令和 8 年度施行	鳥 取 県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

上部工断面修復詳細図 (43)

岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ5)

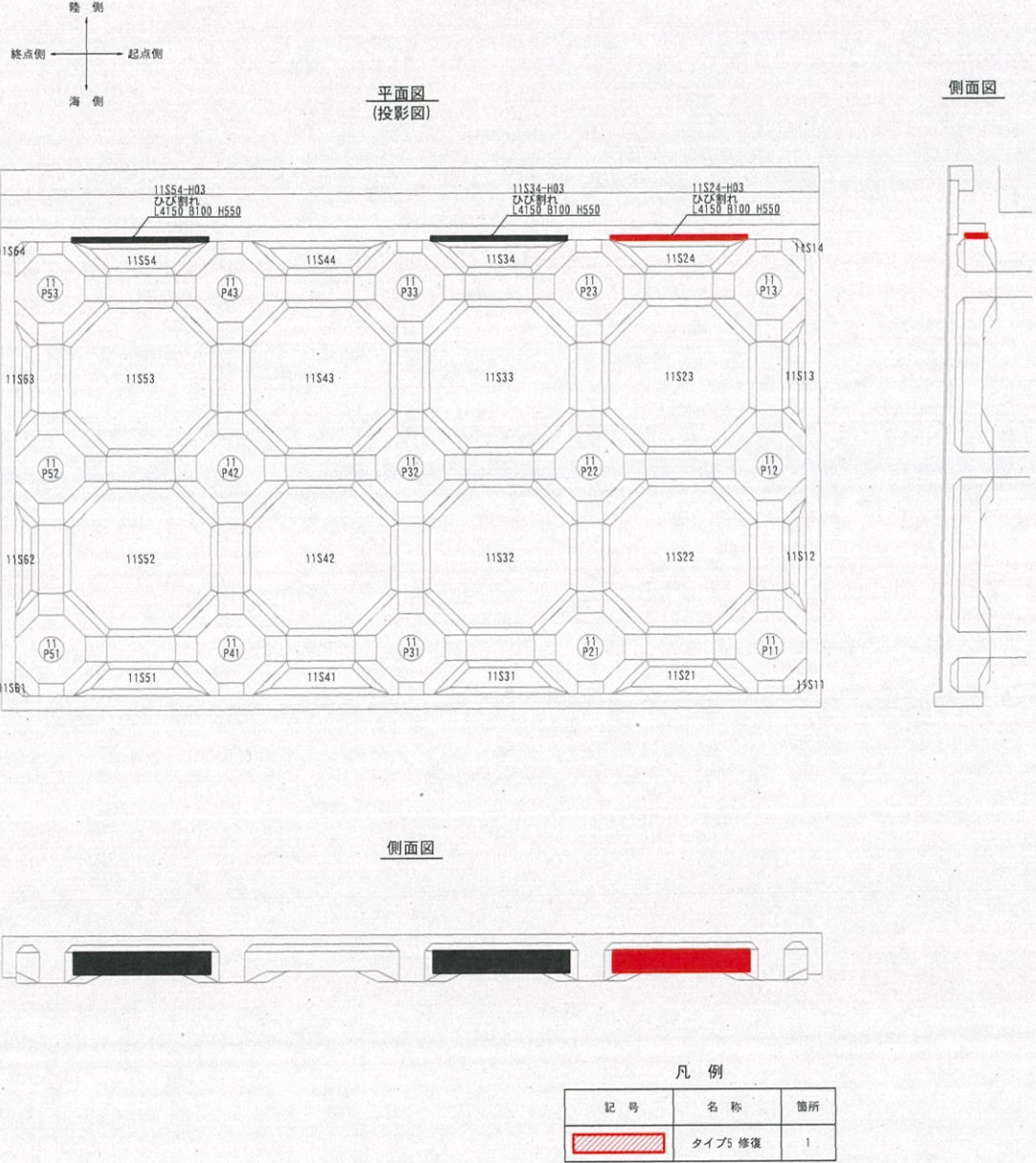
タイプ5 修復断面図 S=1:20



タイプ5 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り 数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.251	1	0.251	$v = 0.550 \times 0.110 \times 4.150$ $= 0.251 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.251 \times 1 = 0.251 \text{ m}^3$
コンクリート復旧	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m ³	0.251	1	0.251	$v = 0.550 \times 0.110 \times 4.150$ $= 0.251 \text{ m}^3/\text{箇所}$ $V = 0.251 \times 1 = 0.251 \text{ m}^3$
型枠		m ²	2.739	1	2.739	$a = (0.550+0.110) \times 4.150$ $= 2.739 \text{ m}^2/\text{箇所}$ $A = 2.739 \times 1 = 2.739 \text{ m}^2$

タイプ5 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

(R8) 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (43)
位置	米子市灘町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 14 葉中の内 13
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

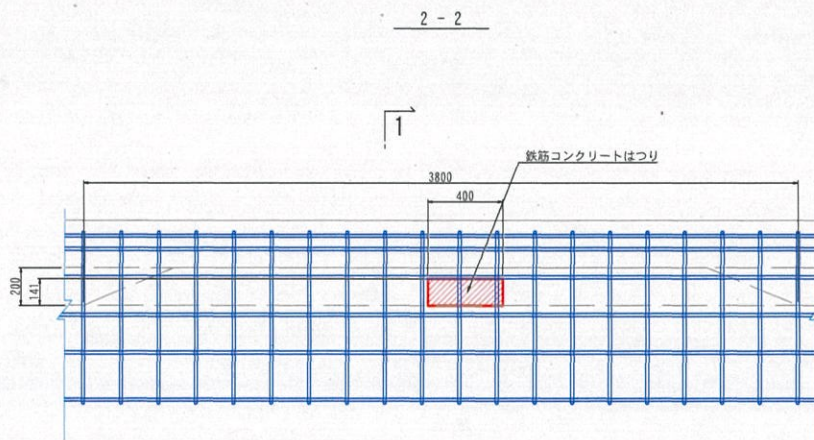
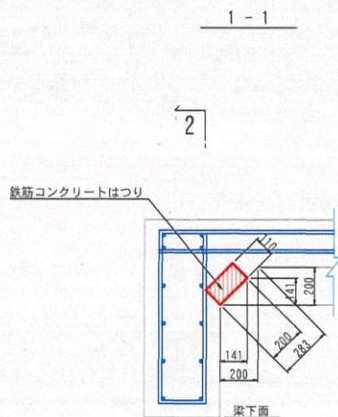
※A3出力時縮尺1/2

上部工断面修復詳細図 (44)

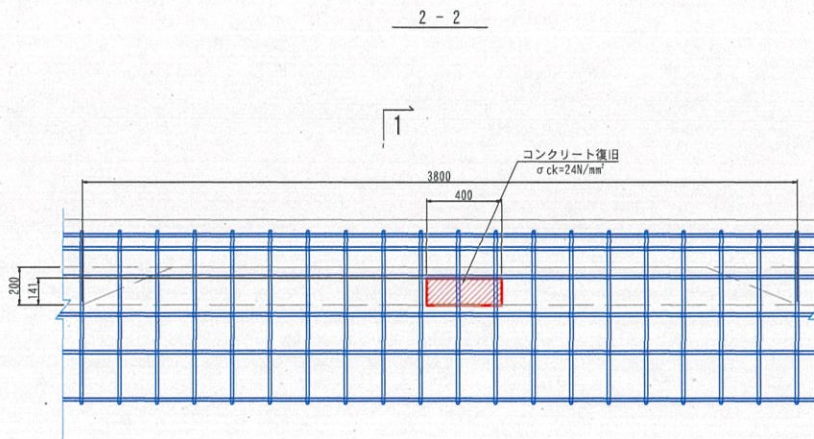
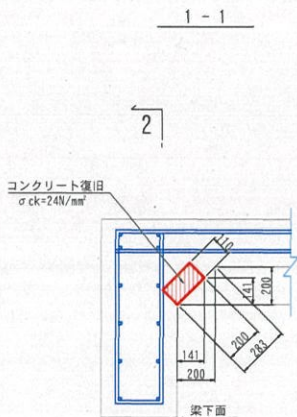
岸壁 (-4.5m) (施設番号 C-1-4, 5, 6)
(BL11, L=22.8m タイプ6)

タイプ6 修復断面図 S=1:20

撤去断面図



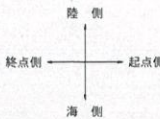
修復断面図



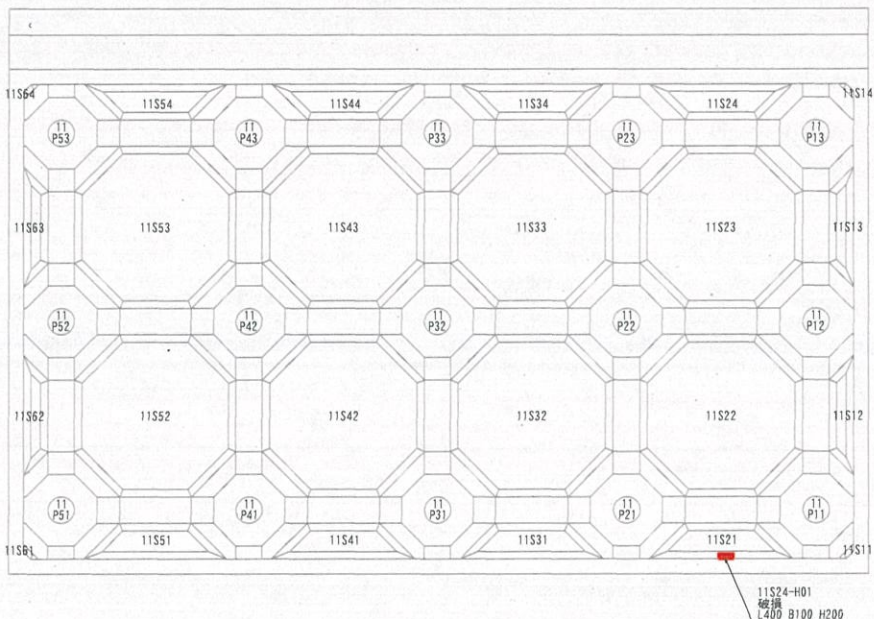
タイプ6 数量表

工種	規格	単位	1箇所当り数量	箇所	数量	備考
鉄筋コンクリートはつり	鉄筋コンクリート	m ³	0.009	1	0.009	V ₁ = 0.200 × 0.110 × 0.400 = 0.009 m ³ /箇所 V = 0.009 × 1 = 0.009 m ³
コンクリート復旧	σ ck=24N/mm ²	m ³	0.009	1	0.009	V ₁ = 0.200 × 0.110 × 0.400 = 0.009 m ³ /箇所 V = 0.009 × 1 = 0.009 m ³
型枠		m ²	0.080	1	0.080	A ₁ = 0.200 × 0.400 = 0.080 m ² /箇所 A = 0.080 × 1 = 0.080 m ²

タイプ6 修復位置図 S=1:100
(変状図より)



平面図
(投影図)



側面図



凡例

記号	名称	箇所
■	タイプ6 修復	1

注) ・鉄筋径、間隔は現場施工時に確認すること。
・設計上は鉄筋を16φ200と想定して断面修復範囲(定着範囲)を決定している。
・鉄筋径、間隔が違う場合、実際の鉄筋径において断面修復範囲(定着範囲)を決定すること。
・鉄筋の腐食が著しく、既設鉄筋の残存断面積が90%以下の場合は、断面減少分を添え筋により補強すること。

(R8) 実施 起工

路線名	米子港
米子港 (-4.5m) 上部工補修工事 (12工区) (補助)	
図名	上部工断面修復詳細図 (43)
位置	米子市灘町
縮尺	図示 単位 mm
図号	全 14 葉中の内 14
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県西部総合事務所 米子県土整備局	

※A3出力時縮尺1/2